

# アダプテッドスポーツ「タグ柔道」に関する実践報告

○深津達也 工藤俊史 安達敬子 中村晋 宇佐美太郎 高津梓 佐藤義竹  
(筑波大学附属大塚特別支援学校)

KEY WORDS: オリンピック・パラリンピック教育 タグ柔道 アダプテッドスポーツ

## 【はじめに】

東京オリンピック・パラリンピック 2020 開催を控え、日本全国の学校において、オリンピック・パラリンピック教育が拡がりつつある。オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議がまとめた「オリンピック・パラリンピック教育に向けて (最終報告)」では、オリンピック・パラリンピック教育の教育的価値として、I O C の示すオリンピックの 3 つの価値 (卓越、友情、敬意/尊重) と I P C の示す 4 つの価値 (勇気、決意、平等、インスピレーション) があげられている (2016)。これらの価値を各学校が整理し、スポーツの魅力を探求していくこと、そして、スポーツを通じて様々な人々と相互の理解を図り、平和的資質を養うことが期待されている。

スポーツへ様々な期待がかかる中、筑波大学附属大塚特別支援学校では、知的障害のある生徒たちが、スポーツの本質的な価値、つまり、全力で身体を動かすことへの楽しさや喜びを味わうことのできる種目の開発を目指し、生徒たちにとって、安全、かつわかりやすいルールで実施できる「タグ柔道」というアダプテッドスポーツを考案した。その実践と成果および今後の可能性について紹介する。

## 【目的】

知的障害がある生徒にとっての「タグ柔道」の成果および今後の可能性について検討する。

## 【開発の背景】

2016 年 1 月にオリンピック・パラリンピック教育の一環として、柔道オリンピック (女子柔道 48 kg 級 福見友子選手) との交流会を企画した。しかしながら、柔道は知的障害のある生徒にとって、投げ技等を実施するには安全面の確保が難しいという問題を持つ。知的障害の生徒たちがなんとかして、日本固有の武道である柔道を体験できないだろうかとの思いから生まれたのが「タグ柔道」である。

## 【ルールの規定、教材の工夫】

知的障害のある生徒たちが、柔道の魅力である、相手とのやりとりの中で身体を動かし、勝敗を競う楽しさを感じることができるように、身体の前面に 2 本のタグ (平らで長方形の布) を付け、お互いに取り合うゲームを考えた。多くの小学校でタグラグビー (タグを取ることでラグビーのタックルが成功したと見なされるニュースポーツ) が実践されているが、「タグ柔道」も同様に、相手のタグを取ることで技が決まったことを示すことにし、相手の前面についている 2 本のタグを先に取りすることで勝利とした。相手とのやりとりを楽しむことを第一とし、それ以外のルールは設けずに実施した。

## 【ルールの改善と生徒の育ち】

練習を繰り返す行方の中で、生徒たちはルールを理解し始め、フェイントをかけたり、相手の動きに応じて身体を動かしたりすることができるようになってきた。それに伴い、最初は遊びであった「タグ柔道」が、相手との勝負に変わ

っていった。相手に勝てたときは大喜びをし、負けたときには落ち込むという様子がみられるようになってきた。そこで、柔道が大切にしている礼の精神と作法を「タグ柔道」に取り入れることにした。試合開始時の相手と向かい合っていく礼は、「互いに相手になりあって高め合おう」という思いを表現する礼とした。試合終了後の礼は、「相手になってくれてありがとうございました」という思いを表現する礼とした。また、礼の意味について理解しづらい生徒もいると考えられたため、礼の後の握手をルールとして設定し、試合を行なうようにした。これまでは、負けたときに大きく落ち込んでいた生徒が、試合に負けたときに、「僕は負けてしまっただけでよかったけど…勝利した〇〇さん、おめでとう」と相手を敬う言葉を口にし、見る人たちを驚かせた。

礼の精神と作法を学ぶことで、生徒たちは相手への敬意や尊重の精神を育てていった。これは、柔道が大切にしている「精力善用」「自他共栄」の精神に通ずるものと考え、より柔道に近づけて実施ができるように、柔道着に着替えて「タグ柔道」を行うことにした。そのことにより、生徒たちはより真剣に「タグ柔道」に取り組み、自他を大切にしながらも、全力で勝負を楽しむようになっていった。生徒たちがより素早く、より激しくタグを取り合うようになったため、安全面への配慮としてヘッドギアを装着して行うことにした。このことにより、相手との接触に不安を覚えていた生徒が、より積極的に攻めていけるようになった。

## 【タグ柔道の魅力】

タグ柔道の魅力として、相手のタグを取れば勝ちというわかりやすいルールのため、多くの生徒が競技のルールを理解および意識して活動に参加できることがあげられる。また、全力で身体を動かし、相手と勝敗を競うことができ、知的障害がある生徒たちが本気で取り組むことができるスポーツといえよう。また、日本で生まれた柔道の精神を学ぶことができ、生徒たちの心の成長も期待できる。

## 【タグ柔道を通じたスポーツ交流の可能性】

本校では、中学部での体育授業での実施やオリンピックとの交流会での実施のほかに、筑波大学附属高等学校の交流委員会とのスポーツ交流、つくば国際スポーツアカデミー (TIAS) に在籍する外国人学生との交流会を実施し、スポーツを通じた交流を図ることができた。タグ柔道は、知的障害のある生徒たちが、ルールを正しく理解し、力いっぱい身体を動かして楽しむことができるスポーツである。今後は、日本全国の特別支援学校や世界中の子どもたちがだれとでも実践できるように、活動を紹介していきたい。

## 【文献】

オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2016) オリンピック・パラリンピックに向けて 最終報告. 文部科学省ホームページ.

(Fukatsu tatsuya, Kudo takeshi, Adati keiko, Nakamura shin, Usami taro, Takatsu azusa, Sato yoshitake)